

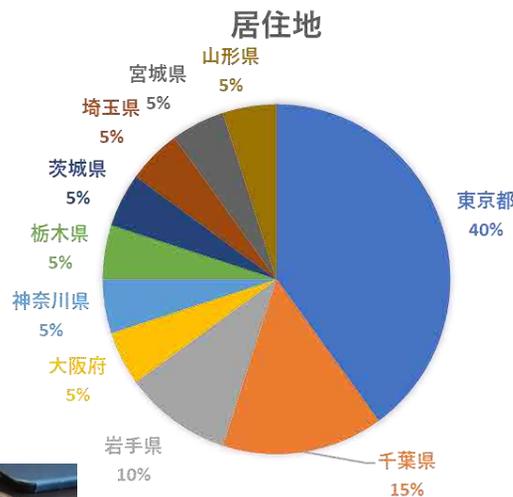
概要

- 三八地域の農業経営体は、他地域に比べて経営規模が小さいため、規模拡大に必要な**労働力の確保等による効率的な営農**が必要となっていた。
- このため農業普及振興室では、管内の指導農業士会、ViC・ウーマンの会、4Hクラブ、市町村、農協等を対象に、経営改善モデルの取組手法に関する情報共有等を行い、その取組を支援する機運の醸成を図った。また、都市農村交流推進モデル、副業人材活用モデルの取組について研修会を開催し、農業者に周知した。併せて、当該モデルを**管内の経営体に委託し、伴走支援を行った**。
- その結果、都市農村交流推進モデルでは、**11経営体が延べ20名の旅行者を受け入れ、労働力確保の実証**に取り組むことができた。また、副業人材活用モデルでは、**1経営体が副業人材3名を雇用し、新製品開発**に取り組んだ結果、**試作品4品の開発**につながった。

具体的な成果

1 都市農村交流推進モデルの取組

- 実施経営体数 R5 0件 → **R6 11件**
- 都市人材採用数 R5 0名 → **R6 20名**（うち2名再訪）



2 副業人材活用モデルの取組

- 実施経営体数 R5 0件 → **R6 1件**
- 副業人材採用数 R5 0名 → **R6 3名**
- 試作品開発数 R5 0品 → **R6 4品**



普及指導員の活動

令和6年

- 地域リーダーや農泊実践者等への働きかけとセミナー開催による各モデル実証候補者の掘り起こし
- 各モデル実証者への巡回指導
- 「おてつたび」による人材募集の支援
- 各モデル実証者の取組実績検討会の開催（2回）
- モデル実証成果発表会の開催（1回）
- 管内7市町村、農業団体等による支援会議の開催（3回）

普及指導員だからできたこと

- ・ 普段の普及指導活動で築いた**農業者との信頼関係**がベースとなり、スピード感をもって事業に取り組むことができた。
- ・ 支援会議や成果発表会の開催により、本取組が労働力不足を解決する一つの方策として認識され、市町村で事業化の動きがみられるなど地域に波及しつつある。

三八型農業経営改善モデルの創出

活動期間：令和6年～（継続中）

1. 取組の背景

三八地域の農業経営体は、他地域に比べて経営面積が小さめで、経営力が弱く、新しい方法を取り入れ、変化を起こすことに消極的な面がある。

このような農業経営体が、今後、収益と所得の向上を図り、持続的に発展していくためには、規模拡大に必要な労働力の確保等による効率的な営農が重要で、継続的な支援が必要であった。

そこで、様々な経営改善を通じた経営力の強化により、課題解決につながる取組事例を多く創出し、その手法を広く普及することにより、管内の農業経営体の所得向上を図ることを目的に、本事業に取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

(1) 都市農村交流推進モデル実証と伴走支援

ア モデル実証候補者の掘り起こし

管内を巡回し、地域リーダーや農泊実践者等と面談するとともにセミナーを開催した結果、11件の実証者を掘り起こすことができた。

（5～10月、計18回、延べ57人）

イ 実証に向けたセミナー等の開催

(株)おてつたびから講師を招き、講演及び個別相談を行った結果、「おてつたび」の取組内容や具体的な活用方法について理解が進むとともに、参加者のうち4件がアカウント登録と募集ページの下書きまで進むことができた。（7/30、21人）



ウ 各モデル実証者への巡回指導

アカウント登録方法の説明や、「おてつたび」とのリモート打合せによる調整、掲載内容の相談等、募集ページ作成を支援した結果、11件全ての実証者が「おてつたび」のホームページに掲載でき、募集開始に至った。（6～12月、計26回、延べ47人）

エ 各モデル実証者の取組実績検討会の開催

地域へ波及させていくため、モデル実証で「おてつたび」を実践した農家を集め、メリットや課題を整理・共有する情報交換会を開催した結果、「農業に興味を持っている人材が全国にいと分かった」「募集すると

すぐに人が採用できる」「実施後も交流が続いている」と好評であった一方、「もてなしの程度」「労働と交流の線引きをどう行うか」「賃金や手数料の負担が適正なのか」「宿泊場所の確保」といった点が問題提起された。(1/14、8人)



(2) 副業人材活用モデル実証と伴走支援

ア モデル実証候補者の掘り起こし

複数の青年農業士に事業の活用を働きかけた結果、1名が活用することになった。

イ 実証に向けたセミナー等の開催

研修会を開催し、農業法人に対して、大企業等の高度人材を副業で活用する仕組みについて研修した結果、農業法人の副業人材への理解が深まった。(11/1、33人)



ウ モデル実証者への巡回指導

課題の聞き取り、募集サイトの作成、副業人材の書類選考等を進めた結果、3名の副業人材を活用して、試作品4品を開発した。

エ モデル実証者の取組実績検討会の開催

実証者と3名の副業人材の活動状況について整理した結果、現在の課題について理解が進み、今後の方向性について決定することができた。

(3) 取組手法の周知と経営改善推進に向けた支援体制づくり

ア モデル実証成果発表会の開催

各モデル実証者の取組や発表資料の作成について伴走支援を行った結果、モデル実証者は、経営改善の必要性や今後の経営改善の方向に検討が進んだ。(2/25、24人)

イ PR活動

モデル実証者の取組について、当室情報紙に掲載して管内農業者や関係機関へ配布配付するとともに、当室ホームページに掲載して、情報発信を行った。(3月)

ウ 農業経営改善に係る支援会議の開催

経営改善の支援体制の構築に向けて、管内7市町村及び農業団体等を参集し、経営改善に関する支援の必要性等について研修するとともに、意見交換や支援の役割分担について確認した結果、農業者からは、労働力確保や省力化などが経営上の課題としてあげられ、その解決に向けた支援の必要性について、関係機関の理解が進んだ。

(6, 11, 2月、計3回、延べ63人)



(4) 活用事業

三八型農業経営改善モデル創出事業（令和6年度）

都市農村交流推進モデル創出のための人材受入に係るマッチング経費、保険料、宿泊費等、副業人材活用モデル創出のための人材募集に関する手数料、副業人材の旅費等を支援した。

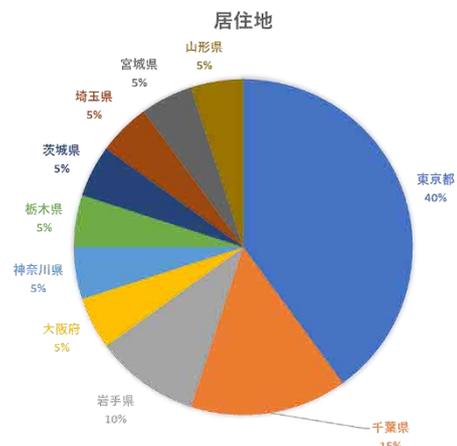
3. 具体的な成果（詳細）

(1) 都市農村交流推進モデル実証

各モデル実証者の巡回指導を行った結果、9～12月に11件全てが受入を行い、2～6日間、西洋なしやさつまいも収穫、にんにく植付けなどの農作業が手伝われた。人材は、東京都や千葉県、茨城県、大阪府等から延べ20人が採用された。

採用者からは、農作業の大変さはあるものの日常では経験できない農村での貴重な体験をさせてもらったと好評で、実施後のレビューはいずれも最高評価が付けられた。

実施した農家からは、意欲のある人たちが来て想像以上に働いてくれて、とても助かったとの声が聞かれた。一方、課題として、いつもの雇用者との賃金差の問題や、ある程度デジタルスキルが求められ、そのサポートが必要といった点があげられた。



(2) 副業人材活用モデル実証

モデル実証者への巡回指導により、課題の聞き取り、募集サイトの作成、副業人材の書類選考等を進めた結果、3名の副業人材を活用し、試作品を4品開発した。



4. 農家等からの評価・コメント

(1) 都市農村交流推進モデル

- ・「おてつたび」の利用はとても良い経験になった。来年度以降もこの事業を継続してほしい。
- ・「おてつたび」の人材が豊富で、募集からあつという間に一定数（定員＋3人）の応募があり、自動的に募集が締め切られる状況だった。
- ・農繁期の人材確保に苦労していたが、「おてつたび」という新しい雇用手段を知ることができて良かった。
- ・農業にアンテナを張っている人の多さに驚きと発見があった。
- ・本事業が、自分の作業体系を見直す良い機会になった。

(2) 副業人材活用モデル

時間や人材に余裕がなく次の一手に二の足を踏んでいたが、本事業で、プロの力を借りて試作品を開発し、商品化に向けて動いている。これが外部人材登用の模範になればいい。

5. 普及指導員のコメント（青森県三八農林水産事務所・主幹・清代真理）

モデル実証者の掘り起こしは非常に困難で苦労したが、実証に取り組んだ農業者からは思っていた以上の反響があり、本事業に大きな可能性を感じている。管内農業者の所得向上につながるよう、本年度も引き続き取り組んでいきたい。

6. 現状・今後の展開等

重点普及指導計画の2年目として、引き続き個別経営課題の把握と各モデル実証への誘導、伴走支援に取り組む。

特に、都市農村交流推進モデルについて、昨年度は2日～1週間の短期設定だったが、令和7年度は1週間～1か月の長期設定とし、農繁期における労働力確保の実証を行うこととしている。